



空き家条例は活きているのか

小玉 勇 議員

3件について具体的に対応中だ

町長

空き家対策を進めよ
「この1年空き家はまったくそのまま、屋根の雪は積もりっぱなし、児童生徒の通学路も極めて危険だ。空き家条例は活きているのか。」
町長 条例は勧告、命令公表以外に罰則や行政代執行まで踏み込んだ先進的な内容だ。具体的に対応するため施行規則も定め直ちに実践行動できるように整えている。

国の方針はどうか。
町長 昨年11月「空き家特別措置法」が制定され平成27年度より施行される。解体費用なども国が対応するように強く要望していききたい。

町の現状はどうか。
町長 125棟空き家があり、明らかに適正管理が進まない空き家対策



進まない空き家対策

目指せ学力向上

東成瀬村は秋田県の東南端にあり、積雪が2メートルから4メートルの特別豪雪地帯で、同じようなハンデがあるにもかかわらず学力日本一という。当町も可能か。
教育長 人口は2700人、小中学校各1校の小さな村だが全国的に注目され「教育は子どもの可能性づくり」をスローガンに「共に学びあう教育」を実践している。保育所、小学校、中学校での連携

どこが違うのか。

教育長 方向性は同じと考えている。ただ当町はまだ始まったばかりだ。東成瀬村の良いところは大きい参考にして進んでいけば、期待に近づくことはできるのではないかと考えている。



小中連携の教育(大石田小)

駅東地区の開発を早急に進めよ

人口減少に歯止めをかけ、まちの活性化を図るためには若者が町に定住することが不可欠だ。定住策のひとつとして駅東地区の開発が急務であると考え、今後どのように進めるのか。
町長 駅東地区は、定住・公営住宅などの整備に向けた候補地ではあると思うが、老朽化している公営住宅の建て替えが必要であり、駅西地区の町保有地の有効利用を含めた中で、町民のニーズ・民間による住宅建設の動向を勘案し、検討していききたい。



町道、流雪溝整備をどう進める

関 幸悦 議員

早期整備に向け取り組む

町長

流雪溝整備は町民の願い



全町整備が望まれる流雪溝

「町民が安心して生活していくためには、冬期間の交通確保をはじめとして、道路整備の促進・流雪溝整備は町民の願いだ。総合振興計画には、流雪溝未整備地区の整備推進を記載しているがなかなか進まない。どのようにしていく考えか。」
町長 町民生活に関わる道路改良や側溝・舗装の整備は、限られた財源のなかで優先順位を検討しながら実施している。流雪溝の未整備地区については、安定した水源及び流末の確保が重要で、国・県・土地改良区など関係機関と調整を図りながら早期整備に向けて取り組んでいく。

「南小学校から小菅地内までの町道拡幅について町の考えは。」
町長 厳しい財政状況を勘案し取り組んでいく。



進むか？ 駅東地区開発